

総力戦時代における英国の民間防衛

1914-1989 年

Britain Under Threat:

Civil Defence in the Era of Total War, 1914-1989

第一次世界大戦から冷戦期までの英国における民間防衛を探る

総力戦の特徴の一つは、「銃後」と「前線」の区別が曖昧になることです。20 世紀、総力戦が頂点に達した時代には、民間人が直接的な攻撃対象となり、新たな技術が従来の戦場だけでなく英国本土にも壊滅的な破壊をもたらす脅威となりました。その結果として、これらの新しい恐るべき脅威から英国とその国民を守る責務を負う、全く新しい政府機関—民間防衛機関—が設置されました。

本コレクションは、英国国立公文書館（The National Archives）に保管されている政府ファイルから 10 万点以上の画像を収録しており、1914 年から 1989 年にかけての英国における民間防衛の歴史を網羅しています。この時期には、**二度の世界大戦、緊張が高まる戦間期、そして冷戦**が含まれます。また、化学兵器、爆撃機、弾道ミサイル、原子爆弾といった市民の生命を脅かす新技術の登場も取り上げられています。これらの脅威に対応するため、**民間防衛は防空壕の建設、防毒マスクの配布、医療物資の備蓄、プロパガンダの発信など、幅広く多様な任務を担うこと**となりました。

収録文書は、内務省、情報省、空軍省など複数の政府機関から収集されていますが、資料に記録されているのは政府の声だけではありません。攻撃の脅威やそれに対する防衛措置に対する一般市民の反応も数多く記録されており、資料全体を通じて強く伝わってきます。また、**20 世紀英国社会の多様性も浮き彫りとなっており、民間防衛が、社会階層、性別、宗教的アイデンティティ、民族的背景、年齢、障害といった違いによっていかに異なっていたのかが明らかになります。**そのため、このコレクションは従来の軍事史の枠を大きく超えた内容を含んでいます。

民間防衛の研究は、1914 年から 1989 年までの英国社会の多くの側面を読み解くユニークな視点を提供します。社会的ダイナミクス、集団心理、デザインと大量生産、家庭や家族の概念、広報やプロパガンダ、政府の介入などに光を当てるとともに、市民権、恐怖、その他の感情的反応、そして日常生活の歴史を探究することも可能にします。このようにして本コレクションは、現代英国の社会的・政治的・文化的・倫理的風景の変遷を理解するうえで、極めて貴重な資料群となっています。



大学・学術機関向け価格

FTE (学生数+教職員数)	3,000~4,999	5,000~9,999	10,000~19,999	20,000~29,999	30,001 以上
買い切り価格	価格は弊社までお問い合わせください				

※大学・学術機関向け IP 接続・同時アクセス無制限でのご利用となります。

※Archive 買い切りの**年間管理費 (Annual Hosting Fee)**は不要です。

※正式な見積価格は最寄りの弊社営業員に別途ご用命ください。

トライアルも承ります!! 詳細お問い合わせは弊社まで

日本総代理店 **極東書店**

FAR EASTERN BOOKSELLERS
KYOKUTO SHOTEN LTD

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル
〒600-8357 京都市下京区柿本町 579 五条堀川ビル
〒810-0073 福岡市中央区舞鶴 1-3-14 小榎ビル

03(3265)7531 FAX (3556)3761
075(353)2093 FAX (353)2096
092(751)6956 FAX (741)0821

URL: <https://www.kyokuto-bk.co.jp>

E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp





1914年から1989年の間に、戦争の形態は大きく変化しました。かつては大陸からの侵略軍を海によって防いできた英国の島国としての地理的安全性も、空からの攻撃という新たな脅威に対しては無力でした。そのため、民間防衛は政府の最優先事項となったのです。さらに、このコレクションが対象とする75年間にわたって、英国が直面した脅威の性質も大きく変化しました。軍事技術の進歩は急速に進み、化学兵器、長距離爆撃機、弾道ミサイル、原子爆弾、水素爆弾の出現により、民間防衛の体制は常に変化を余儀なくされました。

民間防衛の重要な要素のひとつは、政府による国民への情報伝達でした。市民は、どのような脅威が存在するのか、リスクを最小限に抑えるにはどうすればよいのか、攻撃の警告はどのように通知されるのか、警報が鳴った際に何をすべきでどこに避難すべきか、さらには民間防衛や救助活動にどう貢献できるのかといったことを理解する必要がありました。本コレクションは、第一次世界大戦中のポスター、第二次世界大戦中のパンフレットやプロパガンダ映画、冷戦期のテレビ広告といった形で、この情報伝達の手法がどのように変遷していったかを探究しています。

しかし、英国の民間防衛は常に成功したわけではありません。本コレクションには、民間防衛に対するさまざまな批判の声と、それに対応しようとする当局の試みも数多く収められています。たとえば、ロンドン大空襲の最中における避難所の不足や衛生・安全性の問題、灯火管制による犯罪や事故の増加、国民が民間防衛を真剣に受け止めたこと、さらには冷戦期の民間防衛への投資がかえって核戦争の可能性を高めたのではないかという見解まで、幅広い批判が記録されています。

民間防衛政策は、それが策定された時代の社会的・文化的価値観を多く反映しています。たとえば、第二次世界大戦期には「労働者階級、特にその中の特定の少数民族は空襲時にパニックを起こしやすい、集団ヒステリーに陥る可能性が高い」という偏見が広く信じられており、これは避難所政策の設計に直接影響を与えました。他方で、多くの民間防衛組織は女性の積極的な採用を進め、最終的には同一労働に対する同一賃金を実現することで、長年続いていた性別による役割分担の壁を打ち破る助けともなりました。

THE Hydrogen Bomb

WHAT THE HYDROGEN BOMB DOES

The hydrogen bomb's power is reckoned in millions of tons of high explosive; its searing fireball, white and blinding, is as hot as the sun's interior. It can gouge a crater in the earth a mile wide and up to 200 feet deep, and its dust can cause death or sickness hundreds of miles away if proper precautions are not taken. The menace is threefold, for the hydrogen bomb strikes with heat, blast and deadly radiation.

HEAT From the fireball, a column of half an acre, instantly vaporizes anything it touches before it enters into the upper air. Flashes during the first few seconds, its rays can burn exposed skin or set fire to houses as far away as 10 to 15 miles. They can also be felt as far as 100 miles.

BLAST Surges outward at the speed of sound, accompanied by a hurricane wind. It enters doors and windows, causing buildings to "quake". It shatters or even demolishes walls in its path. The resultant flames produce death through their suffocating walls. The worst danger is that people might be struck by flying wreckage, or hurled on the ground or against walls or other objects. Light

RADIATION The atomic fireball sends up and around it rays of death, and this is carried downward to earth down to earth as "fall-out". There is a constant danger of dangerous radiation. Radiation is particularly dangerous because it cannot be felt or smelled, tasted, heard or seen. It can be detected and measured only with sensitive instruments. Even if you keep all the fall-out dust off you, you might still be injured, if you stayed in the open, by radiation from fall-out many miles away.

What YOU could do

Though people think you and your family could not escape heat, blast and radiation could not come from above and there is nothing from the sky that can harm you. But you can protect yourself from heat, blast and radiation. You can do this by following the instructions in this leaflet. You can do this by following the instructions in this leaflet. You can do this by following the instructions in this leaflet.

WHAT YOU CAN DO NOW Join the Civil Defence Corps or the Auxiliary Fire Service. They will teach you how to help yourself and others if war should come.

THE HEADQUARTERS SECTION
Controls operations, provides scientific intelligence, establishes "fall-out" danger zones, arranges communications.

THE WARDEN SECTION
Provides the men, and women, who are the link between civil defence and the public and direct the other services where they are most needed.

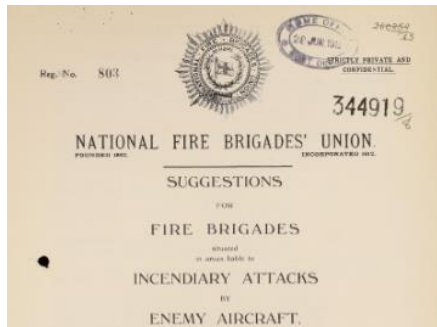
THE RESCUE SECTION
Being specialist equipment, these people trapped under wreckage or in shattered buildings. They may rescue from demolition work by providing first aid.

THE WELFARE SECTION
Measures, feeds and cares for the homeless and hungry.

THE AMBULANCE & CASUALTY COLLECTING SECTION
The Fire, Police, Nursing and other staff services, with their medical duties, are the backbone of the Civil Defence system. They are the backbone of the Civil Defence system. They are the backbone of the Civil Defence system.

■時系列に沿って整理されたアーカイブ

1. First World War



‘First World War’では、英国国立公文書館(The National Archives)所蔵資料をもとに、第一次世界大戦期における英国の民間防衛の実態を探るものです。この戦争は、空中戦が初めて本格的に導入された主要な戦争であり、ドイツによる空襲を受けて、政府は防護措置を講じる必要に迫られました。これが近代民間防衛の始まりといえます。

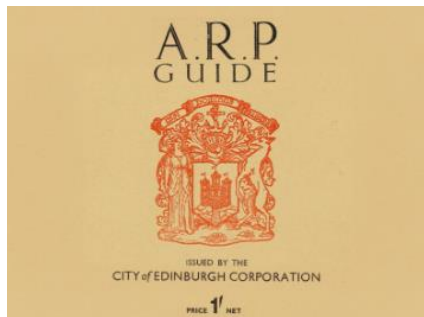
民間防衛は政府だけでなく、市民自身が自宅や地域社会を守る努力にも支えられていました。本巻に収録された文書は、こうした共同の取り組みを明らかにしており、空襲への備えに関するさまざまな資料が含まれています。たとえば、AIR 1/498/15/316 には、敵機と味方機を識別するために市民向けに作成されたポスターが収められており、防衛当局が国民の意識と備え

を高めることが国家防衛にとって不可欠であると考えていたことが読み取れます。

また、AIR 1/537/16/12/143 および AIR 1/308/15/226/185 には、空襲警報の組織運営に関する報告書が収録されています。これらは警報伝達の体制を詳述しており、警報地区の地図も含まれています。HO 45/10789/300000 や HO 45/10794/302000 では、戦時中に都市や村、ロンドンで実施された灯火制限措置について記録されており、HO 45/10899/371825 には、休戦協定締結後にその制限を緩和する過程に関する書簡が含まれています。

これらの記録群は、空襲という新たな脅威に直面した際の民間防衛の課題と、それに対処するために時間とともに進化していった防衛戦略の展開について、貴重な洞察を提供しています。

2. Second World War



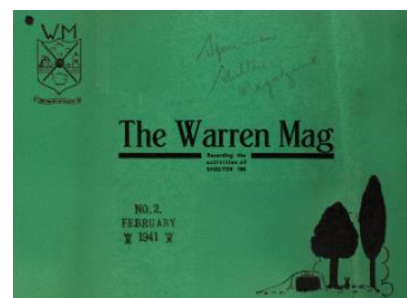
‘Second World War’は、英国国立公文書館(The National Archives)所蔵の資料から構成されており、第二次世界大戦中の英国における民間防衛を扱っています。英国政府は、空爆によって一発の銃声もないまま降伏に追い込まれることを懸念し、「空襲警戒(Air Raid Precautions)」部門を設立しました。この部門は、灯火管制の実施、防空壕の建設、火災監視の監督などを担いました。

‘Second World War’では、そうした大規模な民間防衛の取り組みを詳しく紹介しています。たとえば、防空壕の建設、監視員や空襲後の救助要員の募集、さらには大規模なプロパガンダ活動が含まれます。政府は市民向けに多くの情報パンフレットを発行しました。たとえば、『もし戦争が始まったら知っておくべきこと』(HO 186/114)、『なぜ、どのようにして避難するのか』(HO 186/116)、『戦時中の食料について』(HO 186/117)などがあり、困難な状況への備えを市民に促すものでした。また、空襲警報が鳴った際の対応方法(HO 186/1064、HO 186/1219、HO 186/1216)や防毒マスクの使い方(INF 6/315、HO 186/115)を解説する映像やパンフレットも数多く制作されました。

HO 205/230、HO 205/231、HO 205/233 などの文書には、1943年3月3日に173名の命が奪われたベスナル・グリーン地下鉄駅事故に関する市民の手紙、警察報告書、各種記録が収録されています。また、HO 186/2097、HO 186/2681などは、帝国戦争博物館による戦時民間防衛関連資料の保存活動に関する記録であり、歴史の渦中にあった当時の様子を後世に伝えるための努力を示しています。

女性たちは民間防衛において極めて重要な役割を果たしました。多くの女性が**女性義勇奉仕隊(WVS)**に参加し、活動を支援しました。HO 186/572、HO 199/401、HO 199/452、HO 186/1654 などの文書では、WVSの基本的な任務の詳細を確認できます。また、HO 186/1471、HO 199/401 は、民間防衛業務における性別による賃金格差を浮き彫りにしています。

このように、‘Second World War’に収められた資料は、政府の政策だけでなく、一般市民の実体験も豊かに記録しており、第二次世界大戦期の民間防衛の全体像を描き出しています。



3. Cold War



‘Cold War’は、英国国立公文書館(The National Archives)に所蔵されている冷戦期の民間防衛に関連するさまざまな文書を収録しています。原子爆弾の登場により、核攻撃の脅威が日常的なものとなり、英国政府はその甚大な破壊力にもかかわらず、防護措置の構築を余儀なくされました。さらに、水素爆弾の登場によって、核攻撃の予測や基本的な社会インフラへの影響の把握が一層困難となりました。

‘Cold War’に収められた文書は、核攻撃から国民を守ろうとする英国の試みを示しています。公共防空壕の整備には予算も政治的意志も限られていたため、政府は家庭単位での生存対策に重点を移しました。内務省は、「核攻撃下で自宅と家族をできる限り安全に保つ方法」(INF 6/2531)や「家主に

対する核攻撃からの防護指導」(HO 338/57)といったパンフレットを発行し、簡易的な放射能避難所の自作方法を市民に指南しました。また、民間防衛隊員の募集ポスター(INF 13/236、INF 13/237、INF 13/116)や、核戦争をテーマとした映画『The Walking Point』(INF 6/37)などの制作にも力が注がれました。

さらには、核戦争がもたらす身体的・心理的影響についても検討しています。たとえば、Sally Leivesley による、核戦争における人々の心理的反応に関する詳細な分析(HO 322/1242)などが含まれています。これらの資料は、核の脅威が常に存在した時代における民間防衛の課題を理解するうえで、貴重な手がかりを提供します。



- BOA のご利用で日本国内に居ながら原資料を閲覧することが可能になります
印刷やダウンロードも可能なため、原資料へのメモやコメントの書き込みや
線を引いたり、付箋を貼るなど柔軟な活用ができます

British Online Archives の詳細お問い合わせは弊社まで



日本総代理店 **極 東 書 店**

〒101-8672 東京都千代田区神田三崎町 2-7-10 帝都三崎町ビル

TEL: 03-3265-7531 FAX: 03-3556-3761 <https://www.kyokuto-bk.co.jp> E-mail: info@kyokuto-bk.co.jp